

一般財団法人日本民間公益活動連携機構  
資金分配団体様向け研修

# 評価は、何のために？

# 自己紹介

みらいファンド沖縄 評価アドバイザー  
ケイスリー株式会社／慶應義塾大学政策・メディア研究科  
芸術文化組織・事業の評価  
沖縄読谷村在住

何か質問や問題があれば遠慮なく、  
チャットにてお願いいたします

**目的：**  
**実事例をとおり、**  
**実行団体の評価伴走を**  
**よりよく行う際のヒントを得ること**

## 本日の進め方

1. 評価は、何のために？	30分
2. どうできる？	10分
3. 質疑＋振り返り	15分
※質問はチャットでいただければ、 必要に応じて、合間にお答えします	計60分

## 本日の進め方

1. 評価は、何のために？
2. どうできる？
3. 質疑＋振り返り

30分

10分

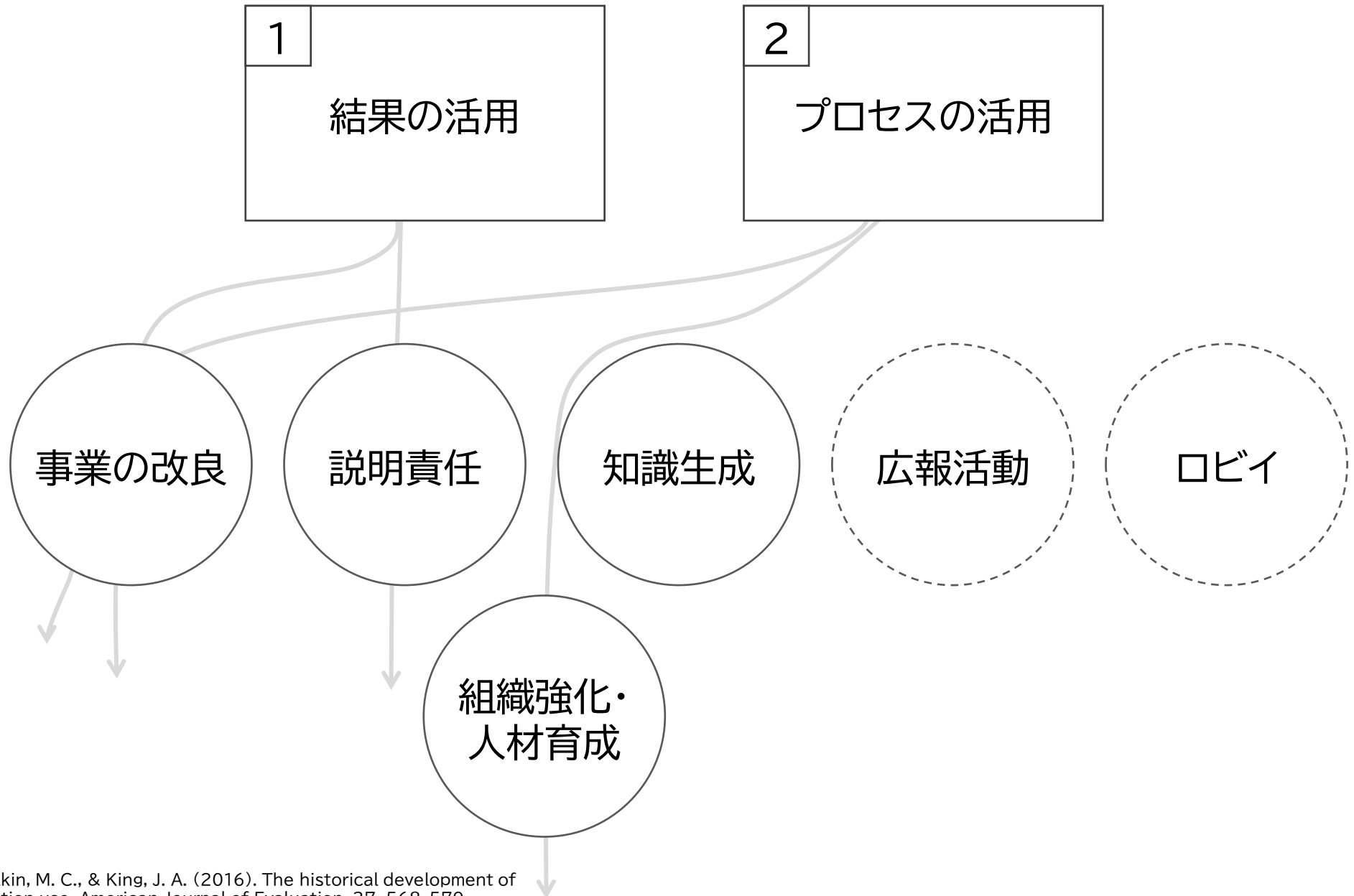
15分

計60分

現在、資金分配団体として実施する  
**自団体の評価、  
実行団体の評価は、  
何のためだと思いますか？**

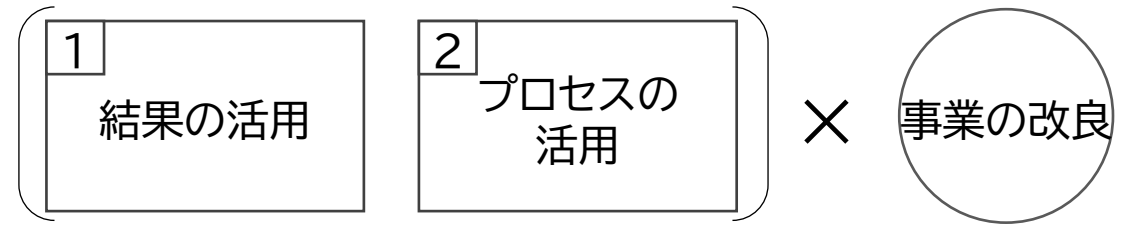
評価プロセス	目的
事前評価	事業を実施する前に事業の必要性・妥当性を判断すること
中間評価	成果の進捗状況を把握し、事業活動や予算・人材等の資源配分の見直し、必要に応じて事業計画の改善につなげること
事後評価	アウトカムの達成状況や事業の効率性を検証し、事業の実施方法の妥当性や課題・成果を振り返ること
追跡評価	事業の中長期的成果や波及効果等の把握、過去の評価の妥当性等の検証を行うこと





参考: Alkin, M. C., & King, J. A. (2016). The historical development of evaluation use. American Journal of Evaluation, 37, 568-579.  
プログラム評価の理論と方法、資金分配団体・実行団体に向けての評価指針

# Case 1



## Kid's door

### アンケート結果の共有

毎回・生徒アンケートシート (English Drive)<sup>※</sup>

日付<sup>※</sup> 2018 年 月 日  
名前 (学年 )<sup>※</sup>

① 今日のあなたは、勉強に対してどのように取り組みましたか。<sup>※</sup>

とても積極的 <sup>※</sup>	少し積極的 <sup>※</sup>	やや積極的 <sup>※</sup>	とても積極的 <sup>※</sup>
1 <sup>※</sup>	2 <sup>※</sup>	3 <sup>※</sup>	4 <sup>※</sup>

② 今日参加することで、学校や家庭からは得られない情報を得られましたか。<sup>※</sup>

全く得られなかった <sup>※</sup>	あまり得られなかった <sup>※</sup>	まあまあ得られた <sup>※</sup>	よく得られた <sup>※</sup>
1 <sup>※</sup>	2 <sup>※</sup>	3 <sup>※</sup>	4 <sup>※</sup>

③ 今日あなたは学習面で、自分のやるべきことを決められましたか。<sup>※</sup>

全く決められなかった <sup>※</sup>	あまり決められなかった <sup>※</sup>	まあまあ決められた <sup>※</sup>	よく決められた <sup>※</sup>
1 <sup>※</sup>	2 <sup>※</sup>	3 <sup>※</sup>	4 <sup>※</sup>

④ 今日の教室の雰囲気は、何でも話せる雰囲気でしたか。<sup>※</sup>

全くそうではなかった <sup>※</sup>	あまりそうではなかった <sup>※</sup>	まあまあそうだった <sup>※</sup>	とてもそうだった <sup>※</sup>
1 <sup>※</sup>	2 <sup>※</sup>	3 <sup>※</sup>	4 <sup>※</sup>

⑤ 今日、英語を使用したり学んでいる時、楽しかったですか。<sup>※</sup>

全く楽しくなかった <sup>※</sup>	あまり楽しくなかった <sup>※</sup>	まあまあ楽しかった <sup>※</sup>	とても楽しかった <sup>※</sup>
1 <sup>※</sup>	2 <sup>※</sup>	3 <sup>※</sup>	4 <sup>※</sup>

⑥ 今日は、英語で挨拶や会話をすることができましたか。<sup>※</sup>

全くできませんでした <sup>※</sup>	あまりできませんでした <sup>※</sup>	まあまあできました <sup>※</sup>	よくできました <sup>※</sup>
1 <sup>※</sup>	2 <sup>※</sup>	3 <sup>※</sup>	4 <sup>※</sup>

学習会実施

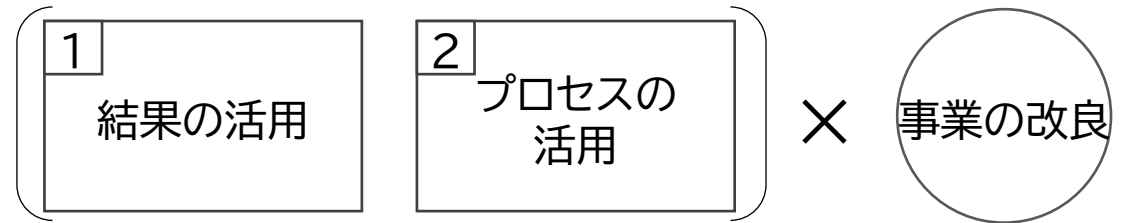
ボランティア  
による会議

⇒ 報告書への活用

ロジックモデルに基づく  
「アクティビティ」改善



# Case 1 Kid's door



KIDS'DOOR  
NPO法人 キッズドア

## ① コミュニケーション、アピール

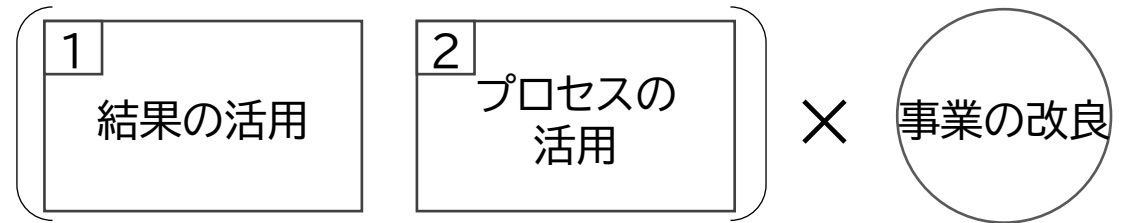
ロジックモデルのおかげで、  
募集、研修、報告がやりやすくなってきた

- ・説明会の時、言葉を統一する
- ・活動内容の意義を説明できるようになった
- ・研修にかんして、活動要素からそのものの意義に至るまで説明できる
- ・報告にかんして、指標または目標が伝えやすくなった



# Case 1

## Kid's door



## ② 改善の取組み（アクティビティ）

1

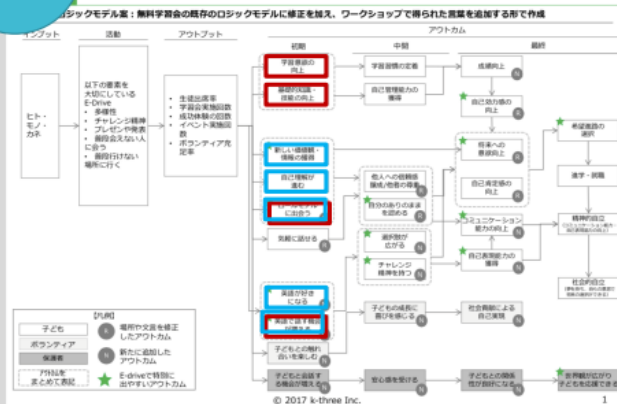
## 個別勉強とアクティビティの違い

**個別勉強**：学校関係のアカデミックな学びの中でロジックモデルにあるアウトカムを得られる時間。

**アクティビティ**：学校では得られない経験の中でロジックモデルにあるアウトカムを得られる時間。

2

English Driveのロジックモデル（全体）

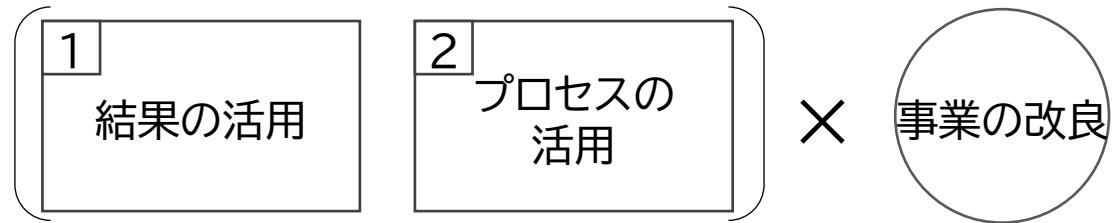


- ・生徒にボランティアの皆様のことをもっと知ってもらいたい
- ・生徒がもっと自己表現をできる機会を作りたい
- ・英語を学ぶことの楽しさを知ってもらいたい

3

- ① 英語を使ったゲーム
- ② 生徒によるプレゼンテーション
- ③ ボランティアによるプレゼンテーション

# Case 1 Kid's door



**KIDS'DOOR**  
NPO法人 キッズドア

リアルタイム・アナリシス

← Back Computer Mobile

**生徒の長期間  
振り返りアンケート  
(English Drive)**

この半年間、E-Driveに参加して当てはまるものを回答してください。

\* Required

1. 氏名 \*  
(フルネーム ※例 山田 太郎)

Enter your answer

2. 氏名 (かな) \*  
(フルネーム ※例 やまだ たろう)

Enter your answer

3. 教室名 \*

☐ 月曜

☐ 水曜

☐ 木曜

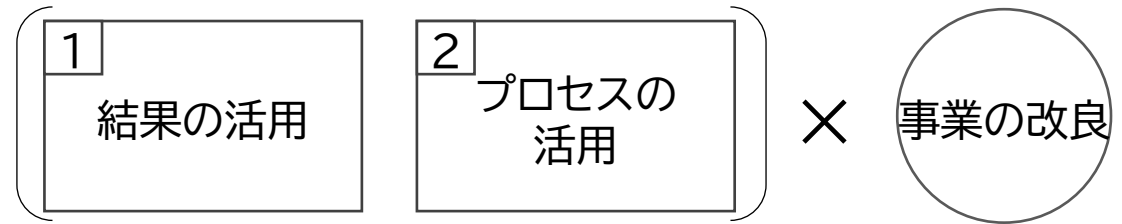
☐ 土曜

4. E-driveに参加することで、この半年間で達成感を得られたことは何回ありましたか。 \*

☐ 0回



# Case 1 Kid's door



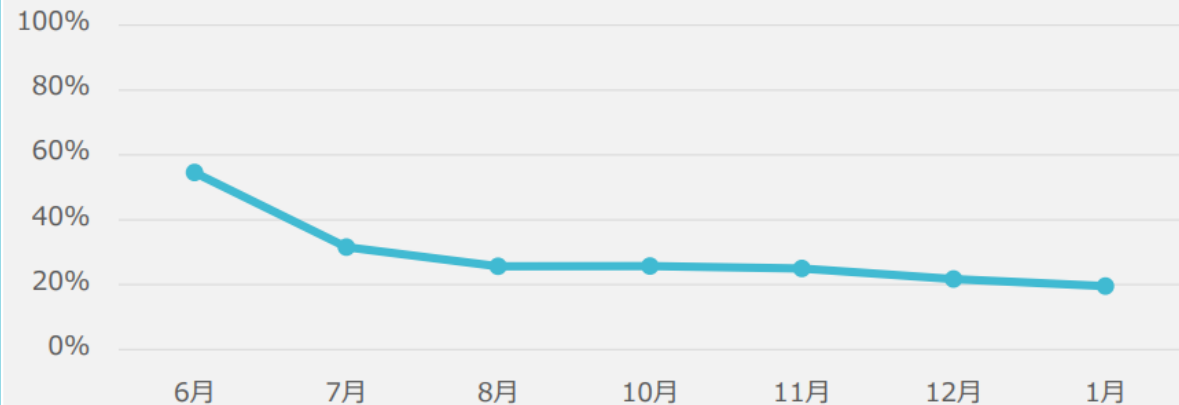
KIDS'DOOR  
NPO法人 キッズドア

## 英語の成績向上

### 英語の苦手を 徐々に克服

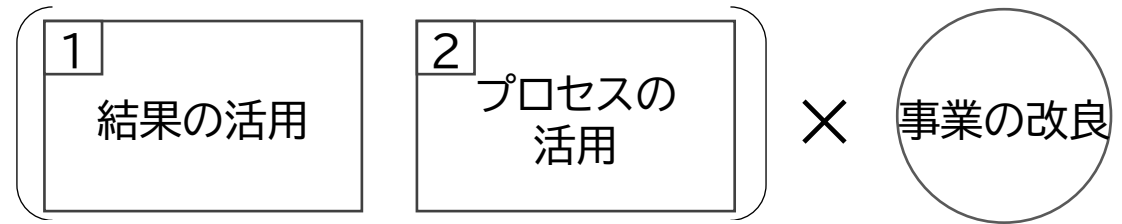
5科目中もっとも偏差値の低い科目が英語である割合が55%から20%に改善

英語を苦手とする生徒の割合（都立Vもぎ）



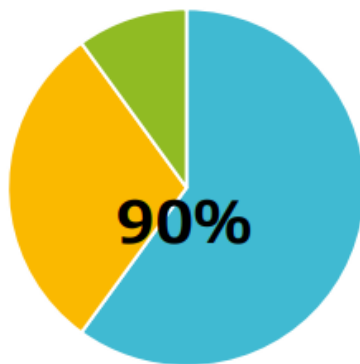
(2017年度)

# Case 1 Kid's door



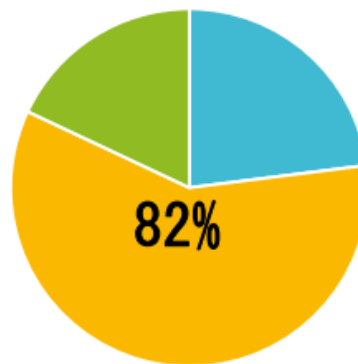
定期的な学習会で苦手意識を克服  
イベントでたくさんのボランティアと交流

英語ができるように  
なりたいと思った



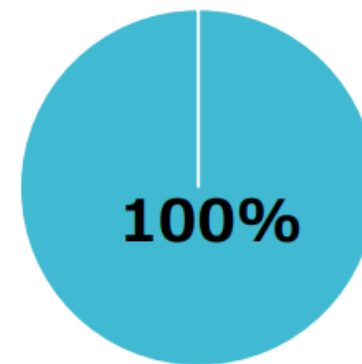
■ とてもそう思う ■ そう思う

海外への関心が  
高まった



■ とてもそう思う ■ そう思う ■

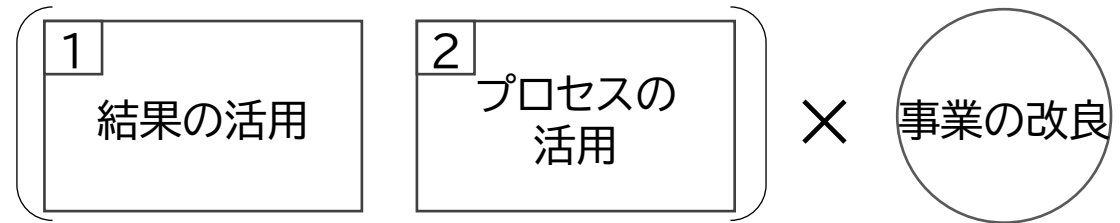
進路について前向きに  
考えるようになった



■ とてもそう思う ■ そう思う

©NPO KidsDoor

# Case 1 Kid's door



**KIDS'DOOR**  
NPO法人 キッズドア

## ソーシャルインパクト評価のアンケート結果②

### 世界観が広がる

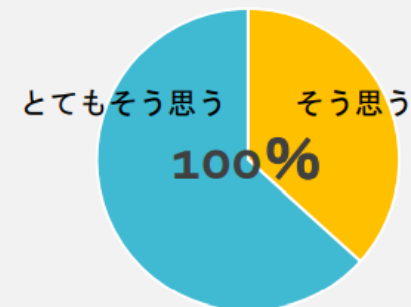
E-driveに参加することで、学校や家族からは得られない情報を得られていますか。

・100%「よく得られている」と「やや得られている」

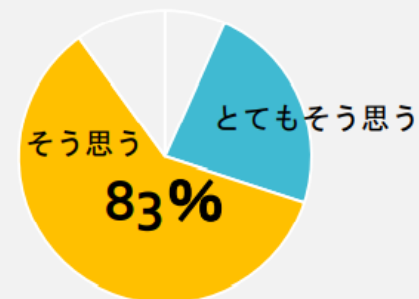
E-driveに参加することで将来の選択肢が広がりましたか。

・83%「よく広がった」と「やや広がった」

E-driveに参加することで、学校や家族からは得られない情報を得られていますか。



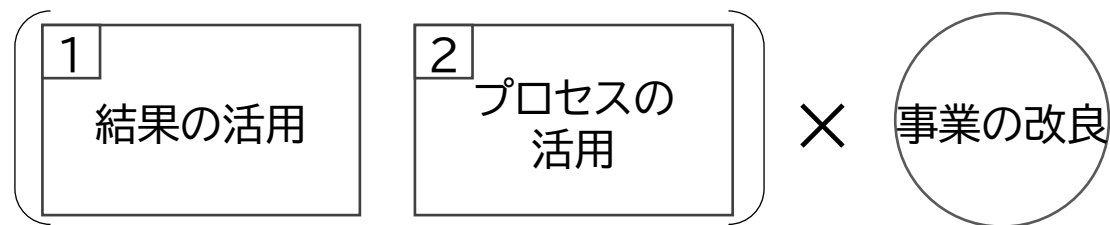
E-driveに参加することで将来の選択肢が広がりましたか。



©NPO KidsDoor



# Case 1



## Kid's door

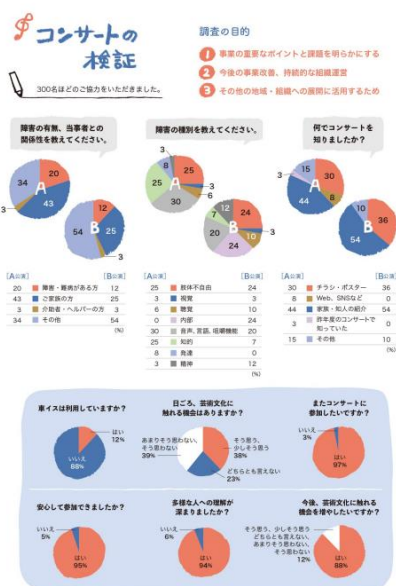
### ポイント

1. ツールを使った迅速な可視化
2. ロジックモデルを通じた結果の理解
3. 事業に取り組む人と、定例会議でのデータ共有

# Case 2



## 琉球フィルハーモニック



### 調査を担当した落合千華氏（ケイスリー株式会社）より

昨年度と比較し、コロナ禍にも関わらず300名超（うち、障害者とその介護者から約半数）と多くの方が参加されました。その内、日ごろ芸術文化の機会があるという方は4割未満にとどまった一方、今回のコンサートを受けて「今後、芸術文化の機会を増やしたい」と回答した方は約9割となりました。「多様な人への理解が深まった」という声は9割を超え、今回のコンサートが芸術文化体験、多様な人への理解を深める貴重な機会の一つとなったことがうかがえます。

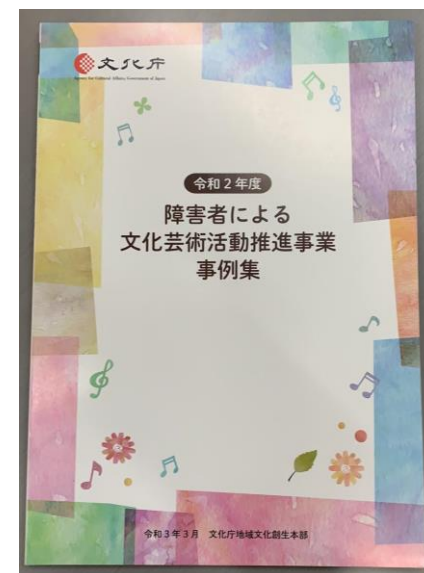
コンサートの実施内容・運営方法についての観客からの声は概ね肯定的で、「コンサートにまた参加したい」「安心してできた」の回答は97%、95%。また座席の管理や入り口での検温・消毒の徹底など、新型コロナウイルスへの対応についても、観客の95%が問題なかったと回答し、コロナ禍におけるコンサート運営にも本コンサートの実施体制が一つのヒントになりうると考えられます。

観客だけでなく、制作・実施運営側の声でも「バリアフリーへの意識の向上があった」「多様な人への理解が深まった」という回答はそれぞれ8割を超え、各関係者にとっても学びの深い取り組みであったと考えます。

こうした成果の実現には、1障害当事者を含む大学教授、福祉関係者、アーティストを含めた多様な関係者から成り立つプロジェクトチームが、2昨年度コンサートにおける観客、関係者からの声を参考にしながら、3安全・安心を中心に据えて入念な準備・多様な選択肢を提供するため、対話を重ねてきたことが考えられます。

今後の事業改善や持続的な組織運営、その他の地域・組織への展開においては、こうしたコレクティブなプロジェクトチームで評価を活用しながら対話を行っていくことが重要であるといえます。

### 他の関係団体へのリーフレット配布



# Case 2 琉球フィル

1

結果の活用

2

プロセスの  
活用

×

知識生成

広報活動

障害当事者や音楽療法士、社会福祉関係者など、知見やネットワークを持ち寄る「ゆいまーるミュージックプロジェクト」チームを立ち上げました。

## Q 聴覚に障害がある人の音楽の楽しみ方とは？

**A** 中途失聴者である私も障害を持って初めて気づいたのですが、聞こえない・聞こえにくい状態でも、音楽との関わりは密である方は結構多いんですね。音楽に求める体験（気持ちの高揚）の観点にあるものは同じだと感じています。



障害当事者家族  
黒屋 尚子  
(沖縄県教育委員)

## Q 当事者家族から見たコンサートのよさは？

**A** なんと言っても、動いたり、声をしても周りの目を気にせずに安心してコンサートに参加ができることです。本人だけではなく、家族や普段なら子どもを預けてまではコンサートに行かないという方も多くいます。家族や支援者もいっしょに楽しめるコンサートです。

## Q 視覚に障害がある人にとっての理想的音楽会とは？

**A** 楽器にふれる。楽器の近くで音の出方、振動を通して感じられる。解説があるなど、視覚障害者は聞き、触れて、体感できる内容がいいと思います。個人的に第2部は指揮者の方が解説もしていたので、想像しながら楽しむことができました。YouTube配信を今後も両立できたら行きたくても行けない方にとって励みになると思います。



視覚障害当事者  
内間 由美  
(観光あんまマッサージ指圧師／中城漢方子宮ケアプラザ)

## Q 関わってよかったことは？

**A** 多種多様な障害当事者や専門職の方々の意見交換できる場にいるだけでも学びになります。“可能性を拓く”機会に参画できる喜びに感謝です。



身体障害当事者  
仲根 建作  
(NPO法人沖縄県有難難者協会理事長)

## Q 関わってよかったことは？

**A** 当施設はバリアフリーなため、車イスの方達がスムーズに入場できたり多目的トイレもあるので当イベントの会場としてよかったと思います。



施設管理者  
具志堅 光  
(多摩区有難難者協会理事長)

## Q 関わってよかったことは？

**A** 他の障害者芸術文化支援の事業に何らかの足を通んだことがありますが、その時には感じられない、当事者の視点と意図、丁寧な設計、地域でやることの意味を感じます。先導的で優れた取り組みに調査例として携わることができ嬉しく思っています。



評価設計者  
落合 千華  
(クリエイター株式会社)

## Q 関わってよかったことは？

**A** 見えない音楽だからこそ、いろんな形を変えてたくさんの人にメッセージを伝えることができる本当に素晴らしいイベントだと思います。沖縄県内には他にも障害を抱えて活動しているアーティストがいるので、その方たちを推薦したいと思っています。



身体障害当事者／ゲスト出演  
謝花 勇武  
(コンスタンティノフ ラーダー)



聴覚障害当事者  
渡久地 洋  
(NPO法人美ら島きこえ支援協会事務局員)

## Q コンサートを聞こうと思ったきっかけと選曲は？

**A** オーケストラ公演を障害者の方に鑑賞していただく際に、車椅子やストレッチャーの受け入れ、障害者によっては声を上げたり、動き回ったりする等多様な反応があり、受け入れに限界がありました。障害者やご家族が安心して鑑賞できる環境づくりの必要性を感じました。選曲に関しては小さなお子さんからお年寄りまで楽しめるように、多くのジャンル（クラシックの名曲、映画音楽、ポップス、ゲーム音楽など）を取り入れ、全体の構成は音楽療法士にアドバイスをいただきながら選びました。



オーケストラ代表者  
上原 正弘  
(一般社団法人琉球フィルハーモニック代表理事)

## Q 地域の役場担当者

知念 淳二  
(多摩区有難難者協会／社会福祉士)

## その他のメンバー

大学教授  
島村 聡  
(沖縄大学 福祉文化学科 教授)

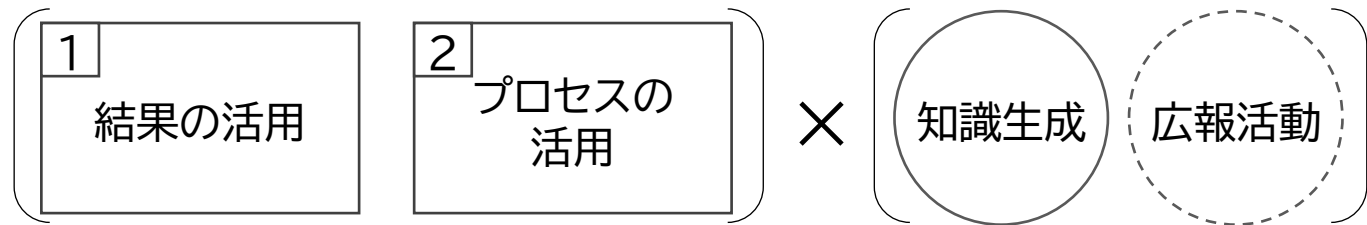
まちづくり  
宮城 潤  
(新都市若狭公民館館長)

音楽療法士  
高良 幸人  
(児童ディセンダーこどもの城ミュージー 所長)

コーディネーター  
樋口 貞幸  
(アシスタント)

プロジェクトの一員としての評価支援者

## Case 2 琉球フィル



### 3. 事前対策について

- ・県のガイドラインを遵守するが、昨年の琉球フィルのガイドラインを参考に作成
- ・入口での手指消毒・体温測定、受付での口頭問診
- ・昨年同様追跡アプリ「COCOA」とLINE公式アカウント「RICCA」の導入を推奨
- ・椅子番号またはフロアマットの鑑賞位置の記入と、名前と連絡先を明記
- ・マスクアレルギーについては昨年同様シールを貼り、他の鑑賞者と少し距離を取る

### 4. 評価調査について：落合 千華さん

### 5. その他

2～5については、ファシリテーター 樋口 貞幸さん進行

### 6. 今後のスケジュール（大まかな流れ）

- ・第2回「ゆいまーるミュージックプロジェクト2021」会議
- ・各会場打ち合わせ

↑ 毎回の会議で、評価についても共有する時間を設ける

→ アンケート項目はプロジェクトメンバーの意見を基にひな形を作成し、チャットでブラッシュアップ

美(ちゅ)らサウンスコンサートアンケート2020A公演(ごうえん)  
docs.google.com

20201119.【ゆいまーるプロジェクト】アンケート（B公演来場者）.docx

20201119.【ゆいまーるプロジェクト】アンケート（関係者）.docx

20201119.【ゆいまーるプロジェクト】アンケート（A公演来場者）.docx

Naoko

@Chika Ochiaiさん  
アンケート作成お疲れ様でした。来場者用のアンケートで、設問10で「問題なかった」にチェックを入れても、設問11で「気になった点」を入力しないと、先に進めないですね。

早速ありがとうございます！！  
必須回答を外しました！ 何様に、20項目も必須回答を外しました。失礼いたしました。

2020/11/24 6:49

Reiko

@Chika Ochiaiさん  
おはようございます。  
アンケート、ありがとうございます！

本当に、いっぱいいっぱい意見を聞きたいですね！

さて、2点だけ。  
来場者アンケートの  
【9】会場までの交通手段ですが、  
2送迎車で  
は、施設の送迎車ということですか？  
今回、皆さんには駐車場からピストン送迎をするので、迷われると思います。  
施設の送迎車を想定していましたら、具体的な方が良いと思います。

チャットをカスタマイズ

- チャット名を変更
- 写真の変更
- テーマを変更
- 絵文字を変更
- ニックネームを編集
- スレッドで検索

チャットメンバー

- Chika Ochiai  
上原 大輝さんが追加
- Daiki Uehara  
グループ作成者
- Hi Sada  
上原 大輝さんが追加
- Hitoshi Toguchi  
上原 玲子さんが追加
- Isamu Jahana  
上原 大輝さんが追加
- Jun Miyagi  
上原 大輝さんが追加
- Junji Tinen  
上原 大輝さんが追加
- Kensaku Nakane  
上原 大輝さんが追加
- Naoko Teruya  
上原 大輝さんが追加
- Reiko Uehara  
上原 大輝さんが追加
- Satoru Shimamura

# Case 2



## 琉球フィルハーモニック

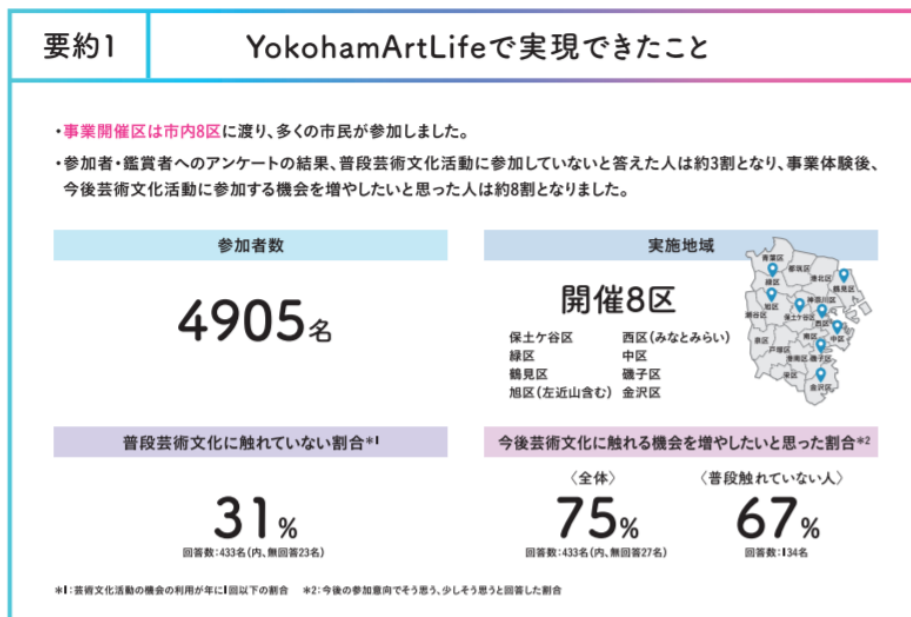
### ポイント

1. 評価伴走(実施)者もプロジェクトの一員として参加
2. 定例会議で、常に評価の件について共有
3. 質問設計等にも、メンバー全員が意見だしをできる  
ような機会を設ける

# Case 3

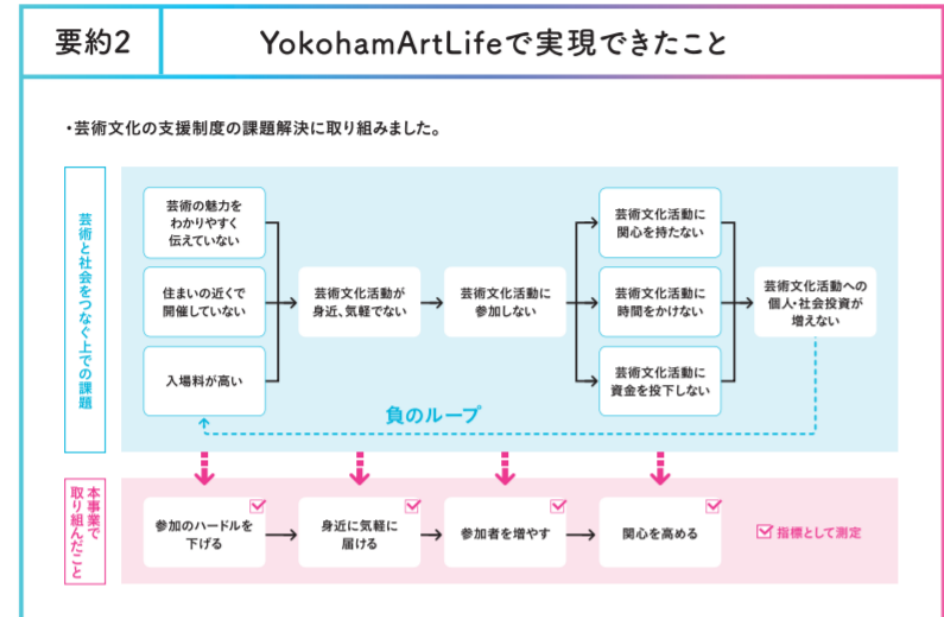


## 公財横浜市芸術文化振興財団(ACY)



3

©YokohamArtLife



4

©YokohamArtLife



## Case 3 ACY



### ジャンルの異なる4団体を採択

ザ・ダークルーム・  
インターナショナル



ヒューマンフェローシップ



YOKOHAMA AIR ACT  
実行委員会



スタジオゲンクマガイ



4団体が一堂に会する定例会議で、評価  
伴走者が評価研修、  
相談会を実施

# Case 3 ACY

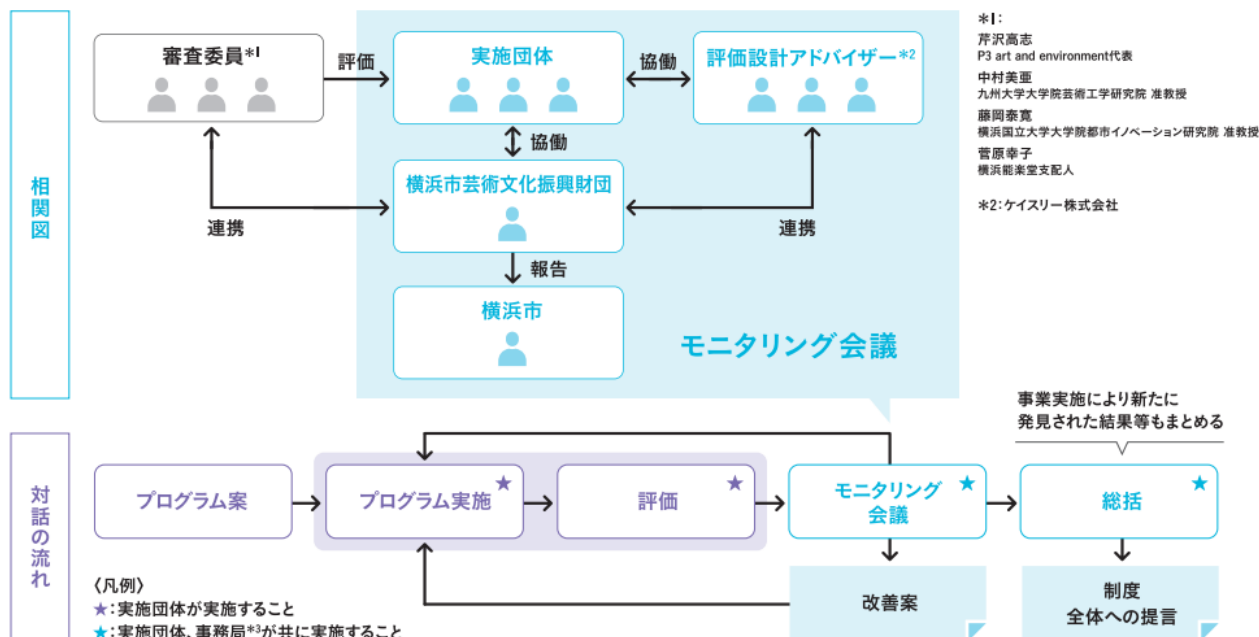


## 1-4

YokohamArtLife  
とは

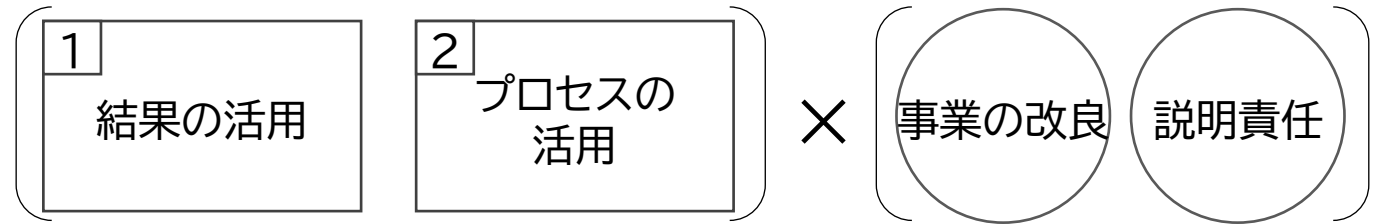
## チームビルディングとコミュニケーション

・評価を対話のツールとし、その対話を通じて紋切型の役割を超えたコミュニケーションの構築を目指して。





# Case 3 ACY



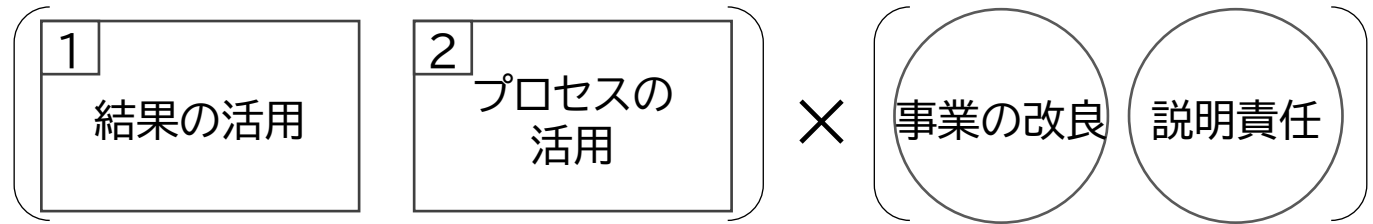
## 2-1 成果測定の設計

## 公募要項における案

・公募要項では共通指標、個別指標をそれぞれ、①計画の構造、②成果に向けた過程、③成果の指標の3指標で事業を把握することにしていました。

	指標の種類	指標	測定時期
共通指標に 該当	計画の構造	地域ランドマークの場の特徴を確認	毎プロジェクト実施時 最終集計
	成果に向けた過程	・プロジェクト実施回数(日数) ・プロジェクト参加者・来場者数	
		プロジェクト参加者の地域への 認識(満足度・誇り)のアンケート	
共通指標および 個別指標に該当	成果の指標	・あらゆる市民に芸術文化体験の機会を 創出するための指標の設定 ・指標の数は最低1項目から最大3項目	毎プロジェクト実施時 最終集計

# Case 3 ACY



## 2-2

成果測定の  
設計

### 決定した指標一覧(1/2) 共通指標

- ・第1回モニタリング会議で各団体と議論した結果、「参加者の属性に関する指標」と「参加者の変化に関する指標」によって事業の成果を把握することになりました。
- ・比較するためのベースラインのデータが不十分であることから今年度は指標に対する目標値は定めていません。

指標の種類	指標	測定時期
参加者の属性に関する指標	①*年齢 ②住まい ③職業 ④参加人数 ⑤グループ属性 ⑥開催場所への来場頻度 ⑦来場理由 ⑧認知経路 ⑨芸術文化に触れる機会の充実度 ⑩芸術文化に触れる頻度	毎プロジェクト実施時 最終集計
参加者の成果に関する指標	⑫芸術文化の今後の鑑賞・参加意向 ⑬プログラムの満足度 ⑭新しい交流機会になったか	毎プロジェクト実施時 最終集計

\*各指標の番号は、3-1(17p)に提示する実際の質問項目と対応しています。

## 2-3

成果測定の  
設計

### 決定した指標一覧(2/2) 個別指標

- ・各団体が特に聞きたい個別指標の設計を行いました。

#### ザ・ダークルーム・ インターナショナル

- ①日頃の写真との関わりについて
- ②ワークショップに参加してももの見方が変化したか
- ③同イベントへの参加意向

#### ヒューマン フェローシップ

- 来場者 ①活動の認知 ②今後の活動の応援
- 参加者 ・対人関係や自己実現に関して、20項目程度

#### スタジオゲンクマガイ (左近山アトリエ131110)

- 以下の項目についてインタビュー
- ・日頃芸術文化に触れることやその機会について
- ・プログラムの具体的な感想

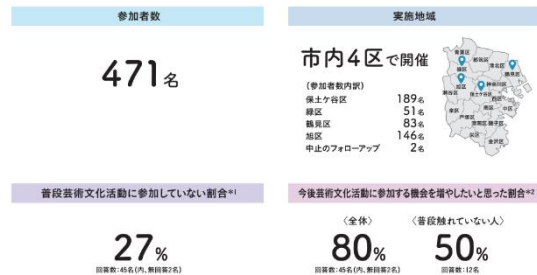
#### YOKOHAMA AIR ACT 実行委員会

- ・個別指標は設定していない

# Case 3 ACY



## 3-2 成果測定の結果 各団体からの報告1 ザ・ダークルーム・インターナショナル



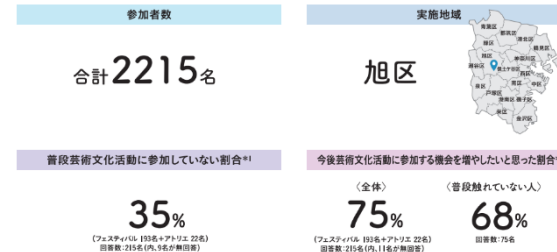
\*1: 芸術文化活動の機会が年に1回以下の場合  
\*2: 1/4の回答者のうち、今後の参加意向がそう思う、少しそう思うと回答した割合

23

©YokohamArtLife

## 3-2 成果測定の結果 各団体からの報告2 スタジオゲンクマガイ

- ・11月30日 広場イベント「左近山アートフェスティバル1」開催
- ・12月 7日 商店街内にて、アート拠点「左近山アトリエ131110」開設

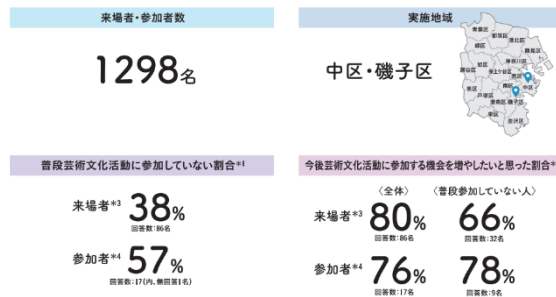


\*1: 芸術文化活動の機会が年に1回以下の場合  
\*2: 1/4の回答者のうち、今後の参加意向がそう思う、少しそう思うと回答した割合

31

©YokohamArtLife

## 3-2 成果測定の結果 各団体からの報告3 ヒューマンフェロージップ

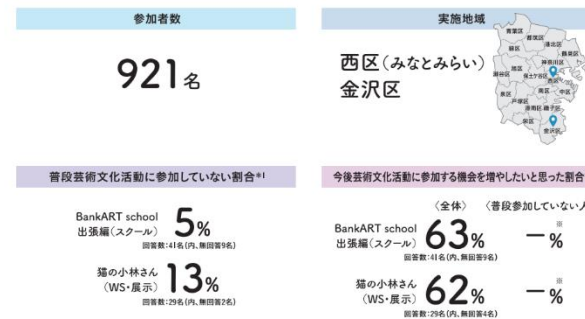


\*1: 芸術文化活動の機会が年に1回以下の場合  
\*2: 1/4の回答者のうち、今後の参加意向がそう思う、少しそう思うと回答した割合  
\*3: 上演会場への来場者  
\*4: ミュージカル参加者

42

©YokohamArtLife

## 3-2 成果測定の結果 各団体からの報告4 YOKOHAMA AIR ACT実行委員会



\*1: 芸術文化活動の機会が年に1回以下の場合  
\*2: 今後の参加意向がそう思う、少しそう思うと回答した割合

※: データ数が少ないため算出せず

52

©YokohamArtLife



# Case 3 ACY



## 3-2 成果測定の結果 各団体からの報告1 ザ・ダークルーム・インターナショナル

### 自由記述

#### 〈機会〉

- 子連れで参加できるプログラムが少ない。
- 興味があるが不便な場所での開催だと参加できない。
- 情報が届かず気付かない。
- 撮影技術のヒントを得に。自分をもっと積極的になれるといい。

#### 〈変化〉

- 子どもに説明できなかったことを教えてもらえて良かった。しかも楽しかった。
- 光の捉え方、人物の動きに意識が行くようになった。
- 身近なものに対する興味がわいた、(写真の)面白さに触れられた。

#### 〈内容〉

- とてもいい内容のWSなのに参加者が少なかったのがもったいない。
- 小学校で案内を配るなど告知方法を工夫出来たらと思います。
- 制作体験が好きなので、持ち帰れるものが出来たのがうれしい。

### 今回の気づき・今後の改善点等

#### 〈広報〉

- ターゲットに合わせた広報の工夫は改善の余地があると感じる。
- (シニア層) 神奈川新聞・広報よこはま・町内会回覧板等 (子育て世代) 広報よこはま・学校を通した告知等  
→一緒に参加する人がいることで、継続参加に繋がる。

#### 〈内容〉

- 世代によって芸術文化体験に求める・期待するものが異なっている。
- (シニア層) 趣味・専門技術に対する探究心、孫や家族とのコミュニケーション (子育て世代) 体験・制作型かつ生活圏内での開催、ママ友や子供の友人と一緒に参加  
→いずれも都心部でない郊外で、生活圏内での継続開催が有効であると感じる。

#### 〈改善点〉

参加者属性や、反応は概ね当初の想定範囲内であったが、世代によって異なるリアクションがある中で、共通していたのは写真を通して「人や場とのリアルなコミュニケーション」を得られる・得たいというもの。期間中に、市内・都内の商業施設からのPHOTO CABIN出展のオファーを複数頂いたことから、今後は単発の集客イベントとの差別化を図り、またPHOTO CABINの1回に掛かる費用等、マネタイズを確立することで持続可能な自立型事業としていきたいと考えています。

## 3-2 成果測定の結果 各団体からの報告2 スタジオゲンクマガイ(左近山アトリエ131110)



↑2019年12月7日(土) 左近山団地の商店街の一角に、アート拠点「左近山アトリエ131110」オープン 団地にアートがやってきた! ギャラリー、ワークショップ、本、クラブ活動など楽しめるスペース



12月の展覧会とワークショップの一覧



↑「いい絵だねえ。心に来るなあ…ピカソとかじゃなくて、これなんだよ!」(左近山団地在住 70代男性 アート愛好家)

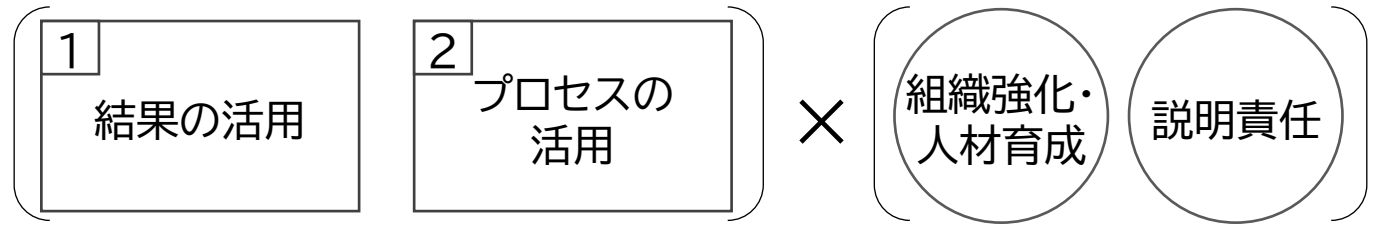


↑1月開催「押忍! 手芸部」展



1月の展覧会とワークショップの一覧

# Case 3



## 公財横浜市芸術文化振興財団(ACY)

### ポイント

- 1.採択団体とのコミュニケーションによる評価設計の更新
- 2.フレームワークを決め、各団体が自立して実施可能に
- 3.定性的な情報も、デザインで効果的に



1

## 結果の活用

2

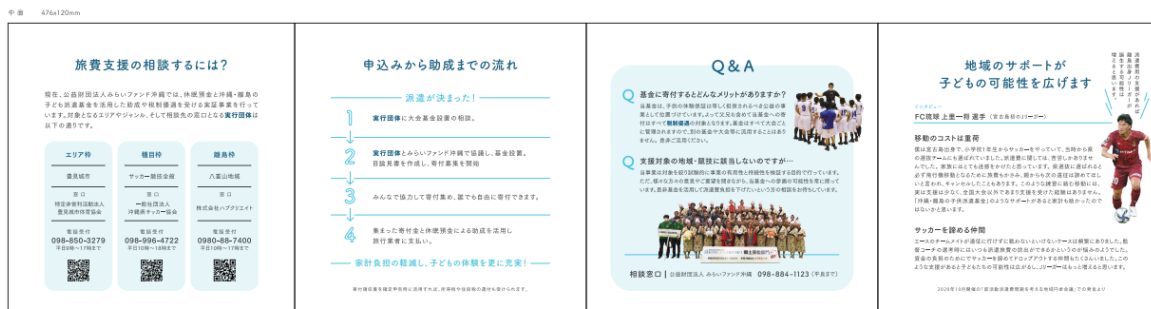
## プロセスの活用

X

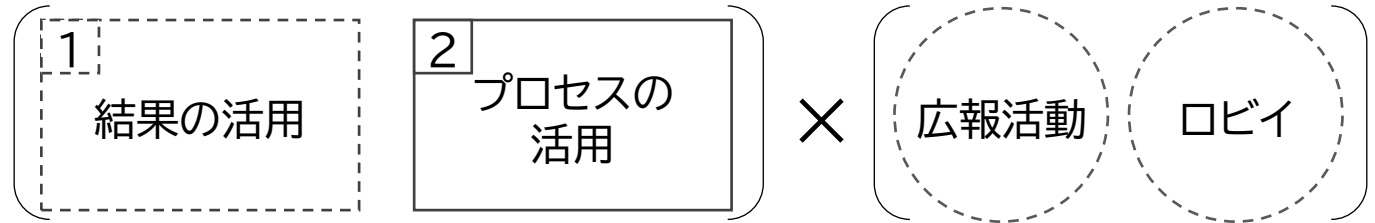
広報活動

ロビイ

# みらいファンド沖縄



# Case 4 みらいファンド沖縄



## 【第2弾】 部活動派遣費を考える地域円卓会議



2021.11.12

開催日時

18:30-21:10（受付開始：18:00～）

開催場所

豊見城市市民体育館 サブアリーナ（沖縄県豊見城市豊崎5-2）

### ■テーマ

豊見城市における部活動派遣費の課題を地域で共有し、商工業者・行政で子どもたちを支えていく体制を考える。

公益財団法人みらいファンド沖縄とNPO法人豊見城市体育協会では、「沖縄・離島の子どもの派遣基金」と称した、部活動派遣旅費に対する助成事業を行っています。今回の円卓会議では、子どもたちの体験保証のための資金源成に地域の商工業者等が参画することの意義を議論します。

■開催日時：11月29日(月) 18:30-21:10（受付開始18:00～）

■開催場所：豊見城市市民体育館 サブアリーナ（沖縄県豊見城市豊崎5-2）

※ご参加の際は、「新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン」を事前にご確認ください。

また参加者の感染防止、健康状態を確認するため、当日会場にて「円卓会議参加に関する同意書」のご記入をお願いします。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、オンライン（zoom）開催へ変更となる場合があります。お申込みいただいた方は、変更があった場合ご連絡いたします。

### ■論点提供者

・沖山 亜紀子 氏（NPO法人豊見城市体育協会）

### ■着席者

・真栄城 潤一 氏（HUB沖縄）

他、調整中

司会進行：平良斗星（公益財団法人みらいファンド沖縄 副理事長）

記録者：宮道喜一（NPO法人まちなか研究所わくわく事務局長）

## 地域円卓会議の実施



## 本日の進め方

1. 評価は、何のために？
2. どうできる？
3. 質疑＋振り返り

30分

10分

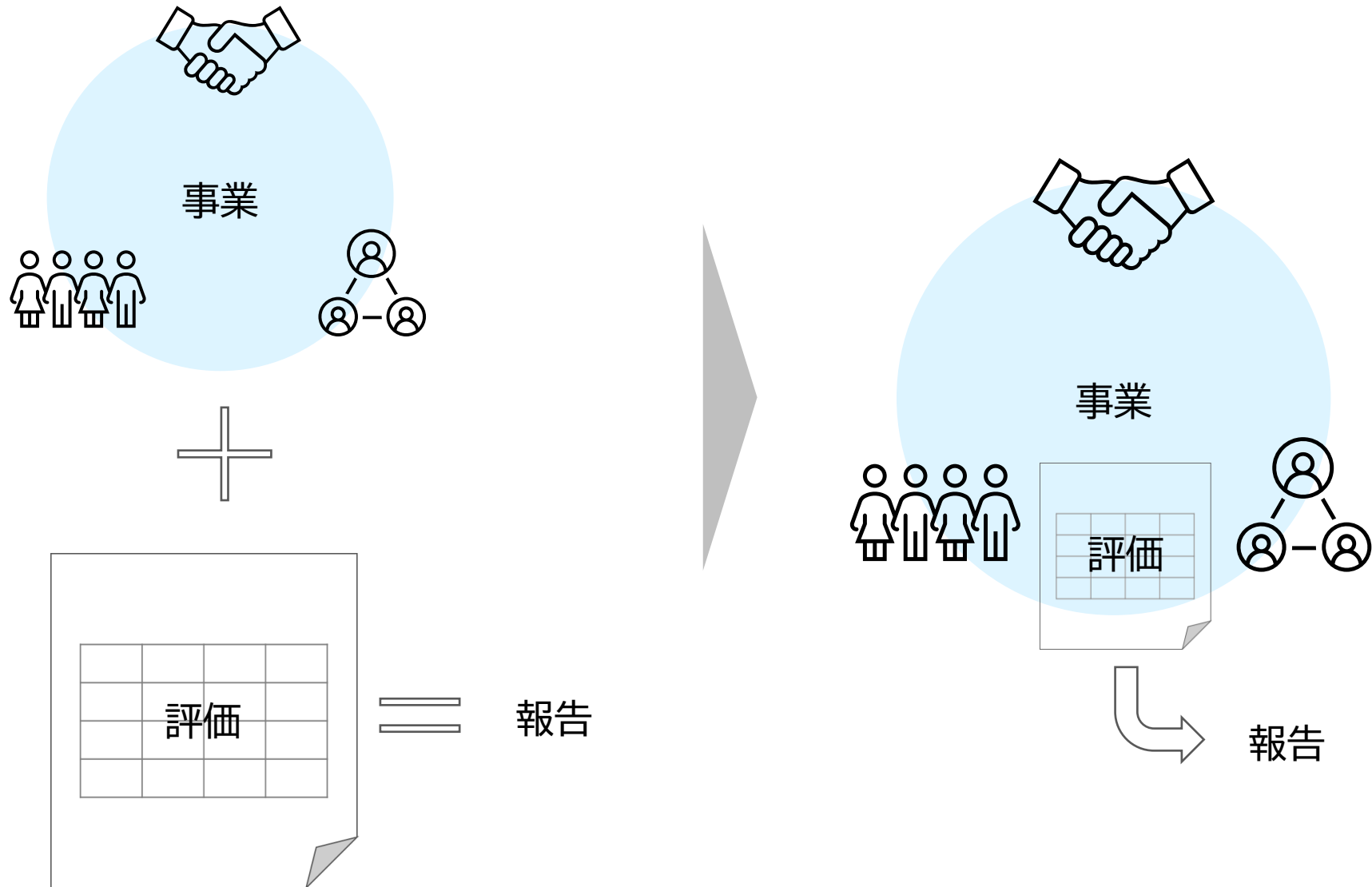
15分

計60分

**事例を聞いて、  
実行団体の伴走に活用できそうだと  
思ったことはありますか？**

- ①事業の中に「組み込む」
- ②あるもの、簡単なものから使う
- ③「事業」の議論の機会を持つ

# ①事業の中に「組み込む」



# ①事業の中に「組み込む」

毎回の学習会の最後に生徒に  
数問答えてもらう



毎回・生徒アンケートシート (English Drive)<sup>4)</sup>

① 今日のあなたは、勉強に対してどのように取り組みましたか。<sup>4)</sup>

とても頑張った <sup>1)</sup>	すこし頑張った <sup>2)</sup>	やや頑張った <sup>3)</sup>	とても頑張った <sup>4)</sup>
1	2	3	4

② 今日参加することで、学校や家族からは得られない情報を得られましたか。<sup>4)</sup>

全く得られなかった <sup>1)</sup>	あまり得られなかった <sup>2)</sup>	まあまあ得られた <sup>3)</sup>	よく得られた <sup>4)</sup>
1	2	3	4

③ 今日あなたは学習会で、自分のやるべきことを決められましたか。<sup>4)</sup>

全く決められなかった <sup>1)</sup>	あまり決められなかった <sup>2)</sup>	まあまあ決められた <sup>3)</sup>	よく決められた <sup>4)</sup>
1	2	3	4

④ 今日の教室の雰囲気は、何でも話せる雰囲気でしたか。<sup>4)</sup>

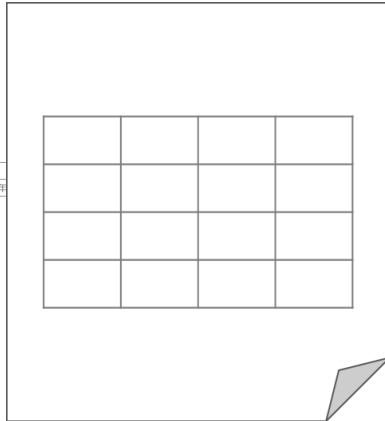
全くそうではなかった <sup>1)</sup>	あまりそうではなかった <sup>2)</sup>	まあまあそうだった <sup>3)</sup>	とてもそうだった <sup>4)</sup>
1	2	3	4

⑤ 今日、英語を使用したり学んでいる時、楽しかったですか。<sup>4)</sup>

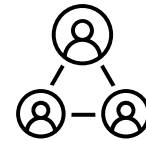
全く楽しなかった <sup>1)</sup>	あまり楽しなかった <sup>2)</sup>	まあまあ楽しかった <sup>3)</sup>	とても楽しかった <sup>4)</sup>	英語を勉強してない <sup>5)</sup>
1	2	3	4	5

⑥ 今日は、英語で挨拶や会話をすることができましたか。<sup>4)</sup>

全くできなかった <sup>1)</sup>	あまりできなかった <sup>2)</sup>	まあまあできた <sup>3)</sup>	よくできた <sup>4)</sup>
1	2	3	4



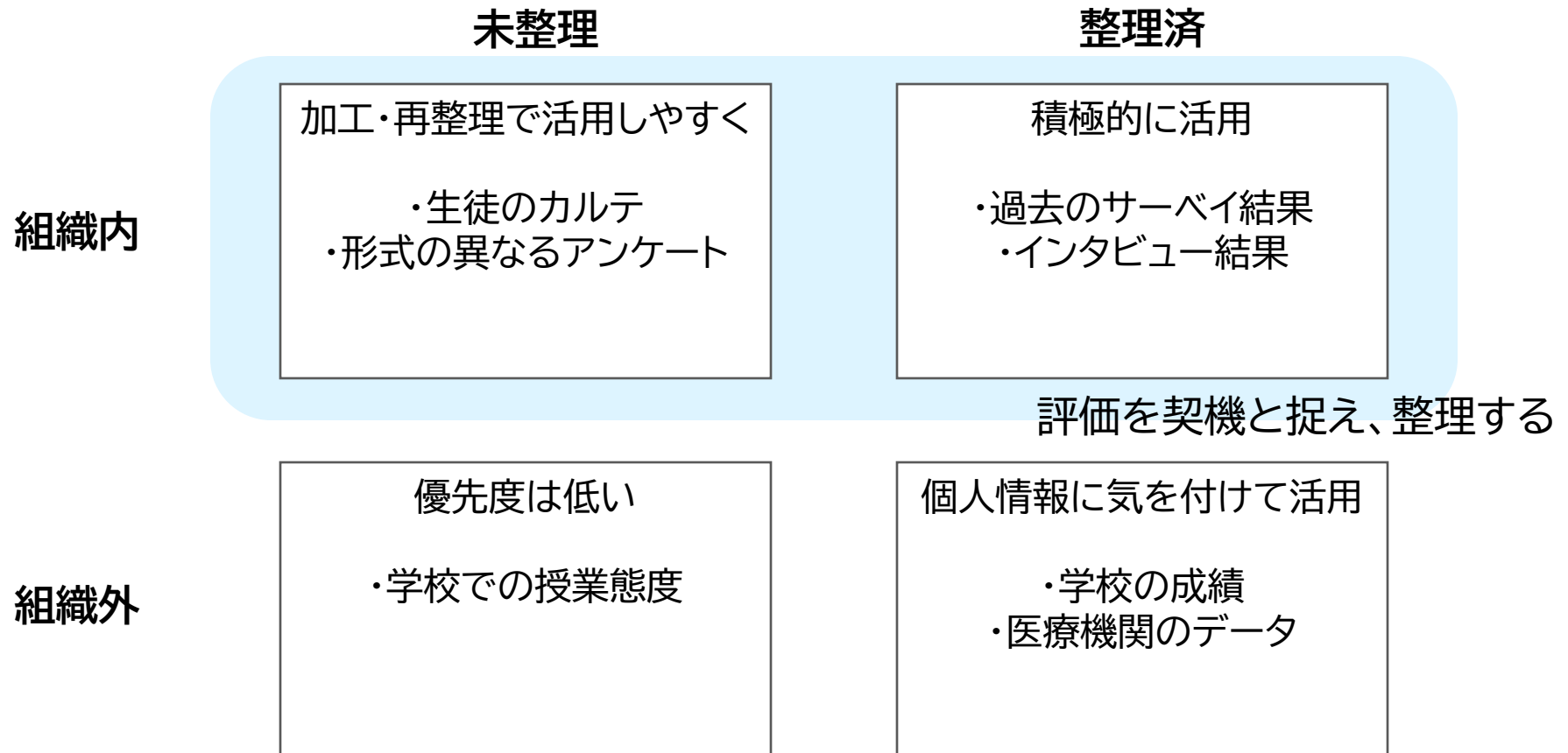
ワークショップ後の、  
意見交換の声をそのままメモ



## ②多様な団地住民の居場所となった

- 「居場所ができた! 仕事と家の間にアトリエ。現実を続ける間の気持ちを切り替える場」(40代/女性)
- 「家みたいで落ち着く。友達と集まれる場所ができた。」(小学4年/女子)
- 「左近山にアトリエができて嬉しい。こういうお店ができればいいなと思っていた。」(70代/男性)
- 親世代にとって仕事と家庭の間で一息つける場、小学生にとっても放課後に友達と集まり絵を描いたり宿題やったりする場、様々な世代のサードプレイスになっている。
- 忙しい家庭の小学生を毎日来店、大人に遊んでもらったり、しつけられたりし、地域で子供を育てる場となっている。
- 認知機能低下がみられる方も含め高齢者が多く来店し、交流を楽しむ場 兼 安否確認の場となっている。
- 25歳〜70歳の多世代をアルバイト雇用。70歳は女性2名、アトリエで働けることを喜んでいる。

## ②あるもの、簡単なものから使う



# ②あるもの、簡単なものから使う

既に公開されている  
インタビュー・広報記事を活用

質問は数問に抑える

「カッコよく、稼げる水産業」三陸から 後継者育成へ  
フィッシャーマン・ジャパン代表 阿部勝太

Game Changer + フォローする  
2020年12月1日 11:00 [有料会員限定]

保存

📧 📄 🐦 📧 📌



祖父は最後まで働きながら、亡くなった。生涯現役というカッコいいが、要は人手不足だ。石巻に帰り、家業に戻ったが、キラキラしていた浜の景色が、以前と少し違って見えた。毎朝3時、酷暑でも厳寒でも海に出る「なんてキツイ仕事なんだ」。外で色々な仕事を経験したからわかる。「どうして休みなく働くのが当たり前なんだ。いつか絶対変えてやる」。東日本大震災が状況をさらに悪くした。25メートルの津波が押し寄せ、すべてを壊した。25歳だった。

## フィッシャーマンとは

水産業に関わるすべての人を「フィッシャーマン」と呼ぶ



フィッシャーマン・ジャパン  
担い手育成事業

- 求人情報発信、受け入れ体制整備
- 大学生、子供の漁業体験

フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング  
水産物販売事業

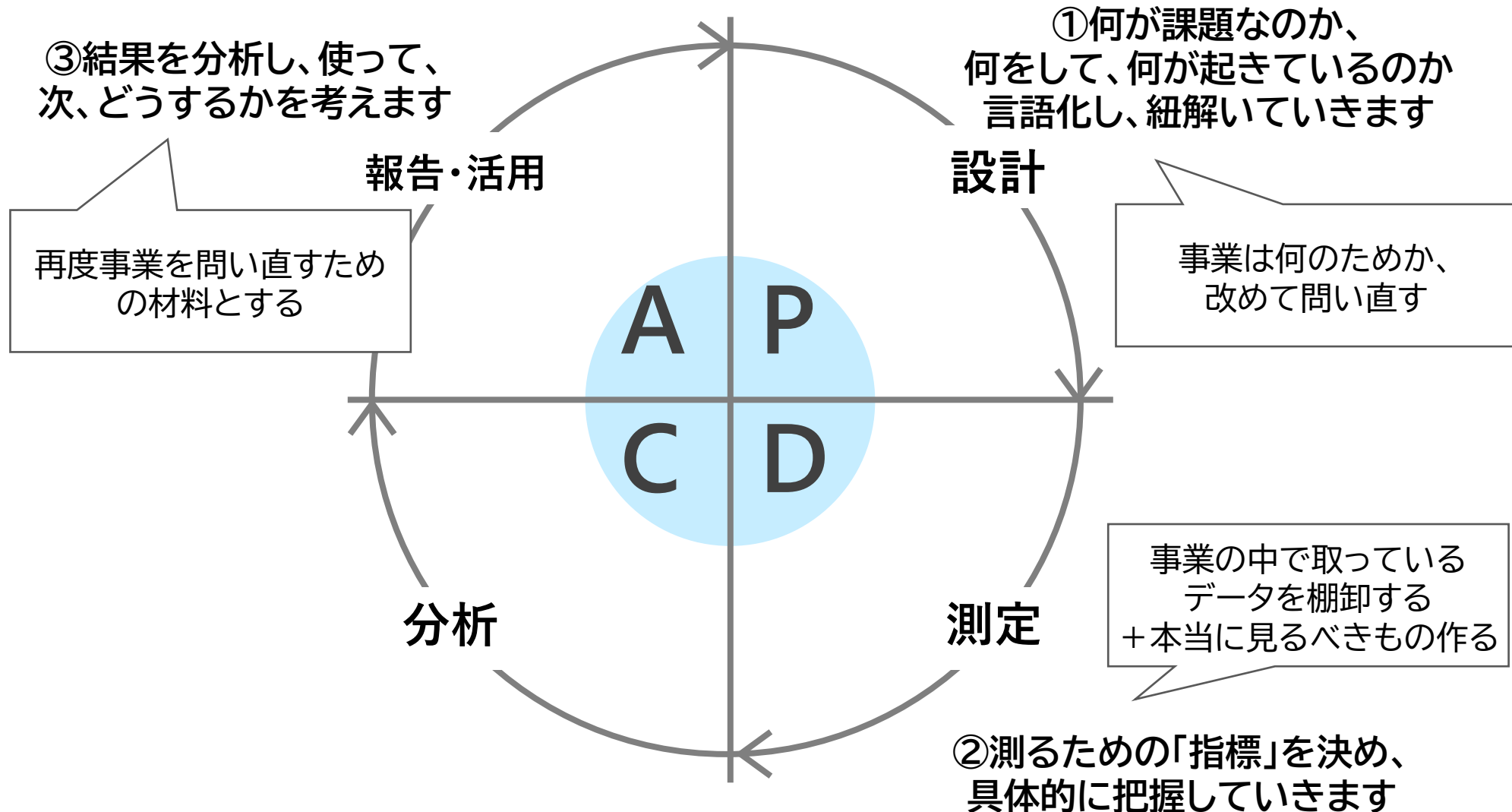
- 飲食店、通販
- 輸出
- 加工品など商品開発



毎回・生徒アンケートシート (English Drive) <sup>4)</sup>

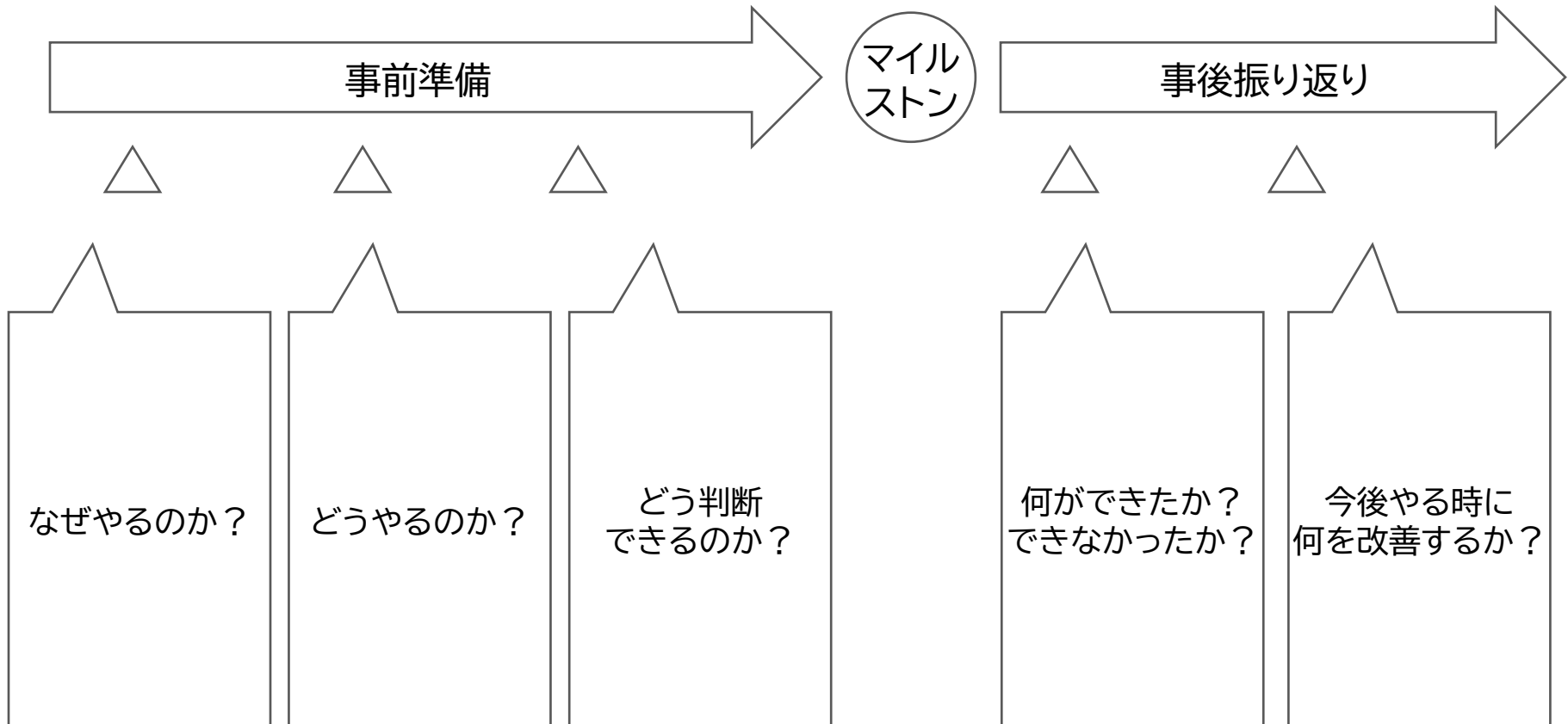
日付 <sup>4)</sup>		2018 年 月 日 <sup>4)</sup>	
名前 (学年) <sup>4)</sup>		( 年	
① 今日のあなたは、勉強に対してどのように取り組みましたか。 <sup>4)</sup>			
とても積極的 <sup>4)</sup>	すこし積極的 <sup>4)</sup>	やや積極的 <sup>4)</sup>	とても積極的 <sup>4)</sup>
1 <sup>4)</sup>	2 <sup>4)</sup>	3 <sup>4)</sup>	4 <sup>4)</sup>
② 今日参加することで、学校や家族からは得られない情報を得られましたか。 <sup>4)</sup>			
全く得られなかった <sup>4)</sup>	あまり得られなかった <sup>4)</sup>	まあ得られた <sup>4)</sup>	よく得られた <sup>4)</sup>
1 <sup>4)</sup>	2 <sup>4)</sup>	3 <sup>4)</sup>	4 <sup>4)</sup>
③ 今日あなたは学習面で、自分のやるべきことを決められましたか。 <sup>4)</sup>			
全く決められなかった <sup>4)</sup>	あまり決められなかった <sup>4)</sup>	まあ決められた <sup>4)</sup>	よく決められた <sup>4)</sup>
1 <sup>4)</sup>	2 <sup>4)</sup>	3 <sup>4)</sup>	4 <sup>4)</sup>
④ 今日の教室の雰囲気は、何でも話せる雰囲気でしたか。 <sup>4)</sup>			
全くそうではなかった <sup>4)</sup>	あまりそうではなかった <sup>4)</sup>	まあそうだった <sup>4)</sup>	とてもそうだった <sup>4)</sup>
1 <sup>4)</sup>	2 <sup>4)</sup>	3 <sup>4)</sup>	4 <sup>4)</sup>
⑤ 今日、英語を使用したり学んでいる時、楽しかったですか。 <sup>4)</sup>			
全く楽しなかった <sup>4)</sup>	あまり楽しなかった <sup>4)</sup>	まあ楽しかった <sup>4)</sup>	とても楽しかった <sup>4)</sup>
1 <sup>4)</sup>	2 <sup>4)</sup>	3 <sup>4)</sup>	4 <sup>4)</sup>
⑥ 今日は、英語で挨拶や会話をすることができましたか。 <sup>4)</sup>			
全くできなかった <sup>4)</sup>	あまりできなかった <sup>4)</sup>	まあできた <sup>4)</sup>	よくできた <sup>4)</sup>
1 <sup>4)</sup>	2 <sup>4)</sup>	3 <sup>4)</sup>	4 <sup>4)</sup>

# ③「事業」の議論の機会を持つ





# ③「事業」の議論の機会を持つ



## 本日の進め方

- |               |      |
|---------------|------|
| 1. 評価は、何のために？ | 30分  |
| 2. どうできる？     | 10分  |
| 3. 質疑＋振り返り    | 15分  |
|               | 計60分 |

## 参考URL

琉球フィルハーモニック報告書:

<https://ryukyuphil.org/wp-content/uploads/2020/04/adca65e77c100b9fdb15c308c639de3e.pdf>

YokohamartLife報告:

<https://yokohamartlife.yafjp.org/news/191>